

国内債券市場アップデート

骨太の方針に「適切な金融政策運営が非常に重要」と明記へ

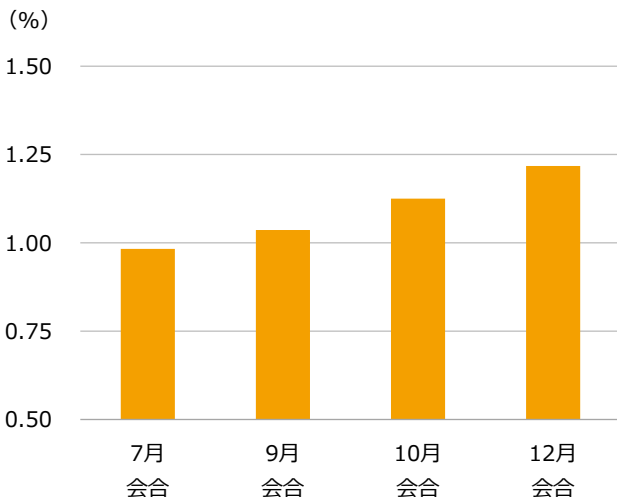
2026年7月3日

経済・物価は利上げ路線を後押しも、骨太の方針は利上げをけん制か

政府が7月にも閣議決定する「骨太の方針」の原案が公表され、2040年度までに戦略17分野へ370兆円超の官民投資を促す方針など、高市首相の政策色が色濃く反映されています。金融政策を巡っては、「『強い経済』の実現に向けては、適切な金融政策運営が行われることも非常に重要である」としたうえで、日銀に対し「日本銀行法第4条及び政府・日本銀行の共同声明の趣旨に沿って政府と緊密に連携」するよう求めており、市場では日銀による追加利上げをけん制するメッセージと受け止める向きがあります。

もっとも、足元の経済情勢は、6月調査の日銀短観で大企業・製造業の業況判断DIが市場予想に反して改善するなど、中東情勢の影響が懸念されるなかでも日銀の利上げ路線を後押しする内容でした。物価面でも、構造的な円安などを背景に、基調的な物価上昇率が2%目標を上回るリスクが意識されています。経済・物価情勢だけをみれば、市場が想定する半年に一度のペースでの追加利上げが妥当であり、リスクは前倒し方向にあるといえます。当社は次回利上げ時期を12月金融政策決定会合とみていますが、骨太の方針で改めて示された利上げへのけん制とも取れる政府の姿勢を踏まえれば、利上げが後ずれするリスクにも留意が必要です。日銀の金融政策運営を見通すうえでは、ファンダメンタルズに加え政治要因も併せて考慮すべき局面といえるでしょう。こうしたなか、市場は年内の追加利上げを100%織り込み切れない一方、長期・超長期金利には財政拡張やインフレへの懸念から上昇圧力がかかっています。

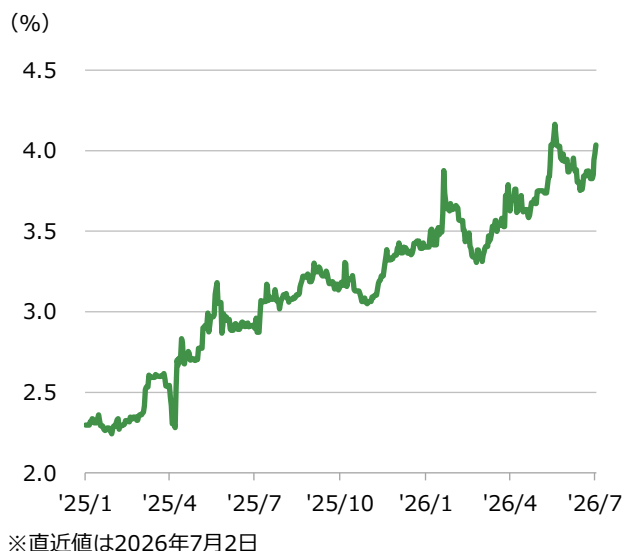
市場が織り込む政策金利の水準



※2026年7月2日時点

(出所) ブルームバーグ

30年国債利回り



※直近値は2026年7月2日

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント